

世界のISO認証件数が公表

ISO(国際標準化機構)は、2023年末時点での世界のISOマネジメントシステム規格の認証件数について集計・調査した“ISO Survey 2023”を公表しました。

ISO 9001(品質)、ISO 14001(環境)、ISO 45001(労働安全衛生)、ISO/IEC 27001(情報セキュリティ)、ISO 22000(食品安全)などを含む15規格を対象に集計されたもので、今回、ISO 28000のデータは収集できなかったとのことで、前回より1規格少ない15規格の認証数となります。データは、前回より利用のIAF CertSearch (IAF=国際認定フォーラムによる登録認証機関向けの最大のグローバルデータベース)からのデータ反映により精度が向上しているとのことですが、今回中国の認定機関の参加がなくデータの共有ができなかったため、過去の中国のデータ量が多いことで集計結果にも大きな影響が出ているとのこと。また、調査に参加する認証機関は各年で変動があり、例えばISO 9001では、英国、ドイツ、インド、豪州、チェコ共和国で、主に認証機関の不参加等が原因による減少が見られる一方、イタリア、韓国、ルーマニア、ポーランドなどでは、前年に参加しなかった一部認証機関等からの報告データの増加に伴う認証数の上昇が見られます。

規格別認証数では、ISO 9001は837,052件

で、国別では日本は39,584件で5位、ISO 14001は300,410件で日本は21,422件で3位でした。その他詳細は、ISOのホームページでご覧いただけます。(https://www.iso.org/the-iso-survey.html)

JGAP・ASIAGAPアドオン規格「+SA」認証で業界初の仮認定取得

弊社では他社に先駆け、日本GAP協会が開発したアドオン認証「+SA」を業界初の仮認定を取得いたしました。「+SA」は、農業の持続可能性をテーマとする国際団体SAI Platform*1が運営する規格「FSA (Farm Sustainability Assessment)*2」とベンチマーキングを行っており、JGAPやASIAGAPに加え+SAを導入することで、FSAのシルバーレベルに相当することが確認されています。この基準を導入することにより、国際的な信頼と競争力を向上させると期待されています。

正式認定は2025年3月頃を予定しています。詳細は、食品認証部(03-4510-2779)までお問い合わせください。

*1:SAI Platform:世界の主要な食品・飲料メーカー等約150社加盟する国際的な団体。持続可能な農業を推進するリーダー的存在。

*2:FSA:環境保全や労働条件、経営の持続可能性を評価するツール。適合率はブロンズ、シルバー、ゴールドとある。

きたかみ・かねがさきテクノメッセ2024に出展

2024年10月25日～27日に岩手県北上市の北上総合体育館で開催された「きたかみ・かねがさきテクノメッセ2024」に出展いたしました。

当日は、ISO規格と共に、本メッセのサブテーマでもあるSDGs関連として、GHG(温室効果ガス)排出量検証、FSC® CoC(森林認証)、MSC CoC(海洋管理協議会認証)、テキスタイルエクステンション認証サービスなどについてもご紹介させていただきました。開催期間中は天候にも恵まれ、来場者数は3日間で計1万人を超え、地元メディアからも大々的に取り上げられていました。

今回の出展では、ご来場者や他の出展組織様との交流・情報交換をさせていただき、貴重な機会となりました。弊社ブースにもお客様をはじめ多くの皆様にお越しいただき、無事終了することができました。お立ち寄りいただきました皆様、心よりお礼申し上げます。



Q&A

前号に引き続き、今号も気候変動を配慮したISOマネジメントシステム規格への追補改正に関するご質問についてご紹介いたします。

Q1. 今回、気候変動の追補版改正により、マニュアルの改訂は必要でしょうか？

A1. 追補される2つの新しい記述を、マニュアルに記載しなければならないという要求はありません。各組織の判断で、記載の要否をご検討ください。マニュアル内に規格要求事項を記載することで、運用手順がわかりやすくなるとお考えの組織は、記載されることを推奨します。

Q2. 追補版改正により、気候変動に関する運用を全く実施していなければ、不適合でしょうか？

A2. インターテックの上位機関では、気候変動の影響が、組織のマネジメントシステム運用に関連するにも関わらず、運用していない客観的証拠が確認された場合、軽微な不適合を提起することを要求しています。一方、組織で検討の結果、実施する必要がない場合は、審査時にご説明願います。

Q3. 気候変動の追補対応は、ISO 14001を取得していれば、それで充分でしょうか？

A3. ISO 14001の認証組織様は、他規格の認証組織様と比べて、気候変動への関わりが深いかもしれません。ただ、ISO 9001、ISO 45001、ISO 22000、ISO 27001など他の規格であっても、地球温暖化や気象災害の発生など、深い関連があり、認証規格に関係なく、どの規格でもマネジメントシステム上で、気候変動に関する課題の有無について決定することが必要となります。

ご質問・ご不明点等は、東京事務所ISO認証部までお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ】

ISO認証部 Email:cert-scheme.japan@intertek.com
※弊社ホームページからもお問い合わせいただけます。
(https://ba.intertek-jpn.com/contact/)